

平成26年度第1回小牧市環境審議会 議事要旨

日 時	平成26年10月23日(木) 午前10時～11時30分
場 所	小牧市役所本庁舎2階202会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>◎石川徳久(中部大学工学部教授)</p> <p>○岡田憲久(名古屋造形大学大学院・造形学部教授)</p> <p>末松雅彦(こまき環境市民会議副会長)</p> <p>堂面 徹(こまき環境ISOネットワーク)</p> <p>鳥居郁夫(愛知県地球温暖化防止活動推進員)</p> <p>中出 忍(公募委員)</p> <p>林 和子(小牧市女性の会会長)</p> <p>坂東益子(公募委員)</p> <p>【事務局】</p> <p>櫻井市民生活部長</p> <p>廣畑市民生活部次長</p> <p>林環境対策課長</p> <p>川尻廃棄物対策課長</p> <p>秋田リサイクルプラザ所長</p> <p>加藤政策推進係長</p> <p>梅村環境保全係長</p> <p>山田主事</p>
欠席者	2名(梶田敏文委員、谷口文男委員)
傍聴者	0名
配布資料	<p>資料1 平成26年度小牧市環境年次報告書(案)</p> <p>資料2 環境基本計画事業メニュー見直し(案)</p>

主な内容

1 あいさつ（石川会長）

2 議題

（1）平成26年度小牧市環境年次報告書について

・事務局より、資料1を用いて説明。

・意見等は以下のとおり。

（林 委 員）資料1の17ページ、廃食用油（天ぷら油）回収事業について、平成22年度から小中学校の回収量・使用量が計上されていないが理由はなにか。

（事 務 局）平成21年度までは各学校の単独調理場で作られていたため計上をしていたが、平成22年度より給食センターに給食業務が移管されたため、小中学校においての計上がなくなった。なお、平成22年度の給食センターの数値が上昇しているのは、小中学校から移管を受けたためである。

（末松委員）25ページ、その他取り組み事業の市民活動への助成について、7事業に対して助成金を交付したとあるが、事業の内訳はなにか。

（事 務 局）個別事業名までは把握できていないが、「はじめの一步」部門で2事業、「元気なまちづくり」部門で5事業に対して助成金が交付されている。

（林 委 員）18ページ、資源回収事業奨励金交付事業について、奨励金額の算出方法で、合計に5円/kgを乗じても合わない理由はなにか。

（事 務 局）逆有償の場合は2円/kgを上限として逆有償分を加算しているため。

（林 委 員）3ページ、環境基準の説明において、「環境基準を満足して」とあるが、表記を「満たして」のほうがよいのではないか。

（事 務 局）修正します。

（岡田委員）33ページ、生態系ネットワークの形成について、平成25年度に1地域形成されているが、どういう枠組みで始まって、またどのような活動を行っているのか。

（事 務 局）COP10以降愛知県が生物多様性地域戦略を進め、各地域に生態系ネットワークがある状態にしたいという中で、尾張北部生態系ネットワークは、犬山市・小牧市・春日井市・瀬戸市の4市とNPO団体、大学等で構成されている。立ち上げまでは愛知県が主導で行っていたが、やることについてはその地域が主体となって決めていくことになっているが具体的な活動はまだ決まっていない。今は犬山里山学研究所が中心となって、何がやれるのか、また民間団体も間に入り協議をしている。

（岡田委員）会議も何回かやられているのか。

（事 務 局）今年度も3～4回行っている。

（鳥居委員）農業公園の建設についての状況はどのようになっているのか？

（事 務 局）さまざまな議論をしているところではあるが、現状はまだ進んでいない状況ではある。広大な土地であるため有効に活用したい。

- (鳥居委員) 永久凍結にはならないようにしてほしい。
- (中出委員) 9 ページ、BOD の測定結果について、数値の高いところは何か原因があるのか。下水道の普及との関係性はあるのか。
- (事務局) 具体的なところでは大山川の小向橋だが、上流部の不発橋から小向橋までの間に春日井市を通過しており、その地域における下水道の普及率がまだ少ないためと推測される。
- (石川委員) 6 ページ、光化学オキシダントの濃度数値が上昇しているが、原因はなにか。
- (事務局) 大気汚染測定局が国道 4 1 号沿い弥生町交差点に設けてあるが、設置場所の周辺は交通量が大変多く、光化学オキシダントの原因となる窒素酸化物が自動車より排出されている。濃度数値の上昇は交通量の増加などが要因ではないかと考えられる。
- (石川委員) 光化学オキシダントの説明が、他の物質の説明と比べると強調されているように見てとれる。環境基準を達成できなかった状況の説明を加えるなどバランスの良い記載にかえるのはどうか。
- (事務局) 記載内容について検討します。
- (坂東委員) 28 ページ、ポイ捨て・フン害防止の啓発について、犬のふん対策を行っているが、最近相談を受けるのは猫のことについてであり、猫対策についても考えて頂けないか。
- (事務局) 猫については、こちらにも住民から相談を受けることがあり、一宮市にある動物保護管理センターに対応方法について聞いてみてはいるがなかなか難しいのが現状である。
- (坂東委員) 相談の内容にも匂いがきついなどといったものもある。
- (末松委員) 米野さわやか会でも試行錯誤しながら対策検討している。効果がでるものがあれば普及させていきたい。
- (中出委員) 26 ページ、小牧市内の電灯・電力消費量が増加しているが、事業系・家庭系のどちらの部門が増加しているのか。
- (事務局) 電灯・電力消費量については総量の報告を受けているため内訳は把握できていないが、相対的に事業系も家庭系も増加しているのではないかとと思われる。
- (石川委員) 27 ページ、デマンド交通の導入について、デマンド交通車両の台数と実施状況はどうだったか。
- (事務局) デマンド交通の実証実験運行を北部地区と東部地区で行った。車両台数としては、北部に 1 台、東部に 2 台で運行を行った。利用状況としては、まず、利用するために利用登録と予約を行うが、北部では 765 人が登録し延べ 2, 282 人が利用し、東部では 919 人が登録し延べ 3, 481 人が利用した。運行当初は利用状況が伸びなかったが、2 月より運行内容を自宅前からの乗降を可能にしたことなど見直しを行ったため利

用者数に改善が図られた。

(岡田委員) 3ページ、環境基準の項目について、この基準はどのように決められているものなのか。

(事務局) 国の基準により定められている。

(堂面委員) 愛知県の環境基準の状況はどのようになっているのか。

(事務局) 愛知県の環境白書によると、二酸化硫黄と一酸化炭素は環境基準を達成しつつ横ばい、二酸化窒素と浮遊粒子状物質は環境基準を達成しつつ近年緩やかな減少傾向にあるが、光化学オキシダントはわずかながら増加の傾向がみられると報告されている。

(岡田委員) 年次報告書の冒頭などで、国や県の環境状況を説明した上で、では小牧市はどうか、また、その時代の状況などを踏まえた内容を記載するのはどうか。

(事務局) 国や県の状況について情報収集を行った上で、次年度の年次報告書において内容を提示させていただきたい。

(石川委員) 大気汚染測定局の設置場所には何か基準があるのか。

(事務局) 特に基準があるわけではなく、交通状況や周辺の施設など環境影響があると判断した場所に設置している。

(2) 環境基本計画事業メニュー見直しについて

- ・事務局より、資料2を用いて説明。

- ・意見等は以下のとおり

(末松委員) 学習の機会の提供について提案であるが、学校によっては、環境委員会を通じて学習の一環としてゴミ問題に向き合うことをもっと詰めていくのがいいのではないかと。環境美化団体をやっているが、その中で環境調査というものを行い、子供たちが自らゴミを拾い、拾ったゴミを分別し、何がどれだけ捨てられているのかを調べることによって、地域への啓発だけでなく、子どもたちの意識向上を図る活動を地域の協力を得ながら行っている。また、美しい街づくり施策で、まち美化ウォークを続けているが、子どもを含めた地域ぐるみで行うことはできないのか。そうすることによって、子どもたちが地域に馴染み、大人も一緒にやれば意識も変わっていくことになるので、折り込んでみるのもよいのではないかと。小中学校には「家庭の日」があり、年に数回でもいいので「地域の日」として地域活動に参加し、清掃活動を行うのも方法ではないかと。そうすれば環境都市としての実現ができてくるのではないかと。

(鳥居委員) 外来種の防除についてどの様の方法で行うのか。

(事務局) この事業メニューは今後実施予定の施策であるため、関係課と調整を図りながら方法を決めていく予定である。

(鳥居委員) 外来種についてどれがそうなのか知らない市民が多いと思うので、周知

を広めることも視野に入れて施策を実行してほしい。

- (末松委員) 環境美化団体の活動の中で、子供からの提案を受けて行った事業があり、一つは「おうちまわり美化キャンペーン」を3年間行い、家の周りのゴミは自分できれいにしましょうというもので、かなりの事業所に協力してもらえて効果があった。2つ目は「タバコの吸殻」でゴミの7割に当たり、改善するために携帯灰皿の普及運動を行い、5年間で1万個を配った。結果8年前の半分に吸殻が減った。いかに子どもが地域に与える影響が大きいかということを考えて動いていく必要がある。
- (事務局) 子どもに対する環境教育の必要性は重視しているため、環境の大切さについては様々な形で提供していくことは検討している。
- (坂東委員) 会議などは大人が参加し、子どもの意見を聞くことが難しい。学校でもカリキュラムの多さなどから実現が困難であれば地域の力を借りるのも方法ではないか。またゴミについてであるが、外国人が多く分別などが大変である。外国人にもわかりやすい表示はないものか。
- (事務局) 外国人への啓発活動を行ってはいるが、転入者も多く徹底ができていない部分もあり、またカレンダーについても見にくいなどといった意見もあるので改善できるところはしていきたい。

以上